

オーストラリア夏期英語研修

都市環境学部 観光科学科 3年 山崎芽生

留学先のマッコーリー大学では朝 8:30～12:45 まで授業があり、休み時間は決まっておらず大体 10:30 前後で 20 分程の休憩がありました。休憩時間以外でも黙って席を立ってお手洗いに行くことが許されていました。私のクラスは、都立大生 6 人、中国人学生 3 人、都立大以外の日本人学生が約 10 人という構成でした。授業は 2～4 人のグループワークやクラス全体でディスカッション、個人作業など様々な形態がありました。私のクラスは大半が日本人学生で、席順も学校ごとに並んでいて、都立大生が固まりやすい環境にあったことが残念でした。授業後は学食で毎日異なる海外の料理を楽しみました。オーストラリアはフルーツが種類豊富で美味しく、学食のスムージーが気に入りました。

私がお世話になったホームステイ先は、ロシア出身のシングルマザーと 17 歳の長女、14 歳の双子の男の子のとても明るい 4 人家族でした。

ホストマザーは留学生を迎えるのは私で 3 人目で、これまで日本人と中国人を受け入れたことがあり、留学生の扱いが慣れていました。私に対してゆっくり話してくれて、分からない単語は紙に書いてくれたのでとても理解しやすく、また私からも話しかけやすかったです。冷蔵庫の中のを好きに食べて良いと言われ、朝食にはフルーツやシリアルやヨーグルトをいただきました。夕食は芋料理が多く出ました。毎晩調理をするのではなく、時間がある時に多めに作りタッパーで保存して 2～3 日同じ料理が続くことも頻繁でしたが飽きることはなく美味しかったです。留学中は様々な食を楽しみましたが留学前と後で体重の変動はありませんでした。

滞在中に 2 度キッチンを借りて手料理を振舞ったことが良い思い出です。1 度目はスーパーでルーミート(カンガルーの肉)を見つけてトマトソース煮にして食べ、2 度目は日本の具材が売っているスーパーに行きちらし寿司をつくりました。日本の具材は 2～3 割増しくらいの料金で売ってました。イクラはサーモンキャビア(salmon caviar)と呼ばれ、現地では超高級品だそうで、具材に使うのを諦めました。どちらの料理も喜んで食べてもらえ嬉しかったです。

挑戦して良かったことは、放課後に見つけたヘアサロンで髪を切ってもらったことです。予約もなしに、お店に入りバツサリ切ってくださいと頼み、留学中にベリーショートヘアにしました。

オーストラリア赤十字(Red Cross Australia)で献血したことも印象的な思い出です。事前にネットで予約し、翌日に確認電話がきて、当日はパスポートを確認されて問診を受けて 542ml 献血してきました。献血後はお礼のメールが届き、献血ルームの方には感謝され、ホストマザーにも驚かれて、勇気を出して良かったです。

オーストラリアには様々な人種の方がいるため、日本人の留学生でも全く浮きません。現地の人とても優しく、フレンドリーな方が多く、治安は良いです。ただ、日本と違って驚いたことは、電車やバス内で飲食をしたり、電話をしても全く問題ないこと、電車の交通費が時間帯や日によって異なること、お店のほとんどが 18 時頃には閉まることです。

基本的に平日の午後と土日は自由時間のため、映画館で映画を観たり(字幕もなしで内容は半分も理解できませんでしたが)、水族館や動物園や図書館に行ったり(図書館には英訳された日本の漫画もたくさんありました)、散歩や食べ歩きをしていました。

この研修を通して、自分が能動的になれば、様々なものが収穫できるということを学びました。

留学前は TOEIC755 点でしたが、帰国してからも英語の勉強を継続し、TOEIC815 点を取ることができました。この研修で英語力が伸びたというよりは、海外の人と英語を使ってコミュニケーションが取れる喜びを実感したことで、これからも英語を学び続けたいというモチベーションにつながりました。

